

楊貴妃伝説の宿 ～コンセプトショップの宿～

長門湯本温泉 玉仙閣 代表取締役 伊藤 孝身

◆600 年の歴史ながれと湯本温泉

長門市は山陰地方のほぼ西端に位置し、東西に延びた地形となっており、北側は日本海に面し青い海と緑に囲まれた素晴らしい景観のところです。又、天然の良港を複数擁していることもあり、漁業が盛んで、新鮮な魚介類が豊富に穫れる恵まれたところです。

観光では青海島をはじめとする自然を生かした観光資源を多く抱え、訪れる観光客も少なくありません。

長門湯本温泉は音信川（おとずれがわ）のせせらぎと山里の風景に包まれ、日本海に臨む長門市の中心部から、南へ 10 分ほどのところに湧出する山口県を代表する温泉郷の一つです。深い緑に包まれ、音信川と大寧寺川（たいねいじがわ）に沿って旅館やホテル、2つの公衆浴場が立ち並んでいます。日帰入浴を受け付けている宿も多く、川のせせらぎが耳に心地よい温泉街は昔ながらのしっとりした湯の町情緒を残して居ります。

温泉の歴史は古く、応永 34 年（1427 年）大寧寺の住職定庵禅師が住吉大明神と遭遇、禅師の間答で感銘を受けた住吉大明神がお礼に湯を湧き出させたという伝説が残り、江戸時代は藩主の毛利公もたびたび湯治に訪れたそうです。

山間の静かな温泉街をぬって流れる清流、音信川、この清流には、ちょっとせつなくて、でもほっと温かな心にしみわたる美しい物語「おとずれがわ恋伝説」が残って居ります。

明和 5 年（1768 年）藩主おかかえとして置かれたお茶屋「清音亭」、そこで働く湯女（ゆな）は出せぬ秘めた想いを文にしたため流した「音信」。その伝説が川の名前になっております。その昔叶わぬ恋に堕ちた湯女は思いの丈を綴った恋文（おとずれ）を橋の上からそっと流したという「川の流れよ、この気持ちどうかあの人に届けておくれ」待つ身がつらい湯女たちのせめてもの流し文、それが、この川「音信川」のいわれでございます。



仙楽全体

◆楊貴妃伝説の残る地で、楊貴妃の愛した風呂と料理をよみがえらせた宿

旅に出ると色々な伝説に巡り合うことがあります。古代の神々たちの神話であるとか龍や大蛇をモチーフにした教訓物語であるとか、摩訶不思議な天変地異の話など、そうした伝説に触れる時、一番大切なのは、まず、信じてみることです。伝説というのは否定から入ると何も生まれません。信じることにのみによって、夢やロマンや教訓を得ることが出来ると思います。ある意味で伝説というのは、遠い昔の人々が我々の想像力を育む為に残してくれたイメージトレーニングのキーワードかも知れません。

当、玉仙閣は美と健康をコンセプトに、平成三年一月に楊貴妃伝説をテーマにして開業した旅館です。

当地、長門市の油谷には、二尊院の境内の一角に五輪の塔の楊貴妃のお墓が現存しております。これは 1200 年前、中国は唐の時代、玄宗皇帝とのラブロマンスで知られた絶世の美女、楊貴妃が安祿山の乱で、死を命ぜられた後、この日本へ渡って来て、そして、日本で亡くなりました。今でも上海の海へペットボトルを投げ入れると黒潮にのってこの油谷の唐渡口に着くといわれております。当時、中国西安の華清池で楊貴妃が実際に愛用していた風呂の遺跡が発掘され、1988 年に復元、中国政府は全世界に発表、一大センセーションを引き起こしました。その 3 年後開業と同時に、玉仙閣が世界唯一と言っても過言ではない、サイズ・形・素材の青石等、遺跡通りに忠実に再現、その深さは何と、1.2m。立って入る浴槽で楊貴妃はそこで美容体操をしていたとか、その特徴は海棠の花弁の形をしており、夜はライトアップでエメラルドグリーンに輝きます。浴槽につかっていると、お客様は楊貴妃になったような錯覚すらおぼえると言われます。当館では楊貴妃にまつわる色々な工夫をしております。例えば湯上がりラウンジは中国の屏風や中国の提灯、又、廊下の壁には楊貴妃の絵などを飾って、お客様に中国の雰囲気味わって貰っております。

夕食の料理は楊貴妃が実際に食していたといわれる、薬膳粥ラバジュ、金木犀の花ビラを熟成して作る桂花陳酒、ライチなどなかなか味わうことの出来ない中国の味覚を味わって戴いております。貴妃湯は女性浴場にしかありませんが、翌朝は男女の浴場が入れ替わるので、男性も入ることが出来、楊貴妃気分を味わうことができます。

来館されたお客様が心おきなく、心身共に癒され満足して帰途に着かれよう、日々、心掛けております。



貴妃湯



山口県 長門湯本温泉

玉仙閣

〒759-4103

山口県長門市深川湯本1234

TEL: 0837-25-3731